

みんなとともに笑顔いっぱい — 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 —



みんなとともに



いつかは「レベル2」になると考えてはいたので、それがたまたま「スポーツフェスティバルの日」からだったということになります。いくつかの変更をして、子どもたちにも保護者の皆様にもご迷惑をおかけしましたが、子どもたちが“満足気な表情”で帰っていったのが救いでした。そして残念ながら「福島市鼓笛パレード」も中止になりました。今後もその局面に合わせた最善の対応をしていきます。



また「フェーズ（局面）」が変わった

昨年の「学校だより 第37号（12月15日）」で書きましたが、新型コロナウイルス感染症分科会提言における分類「ステージ」と、文部科学省の「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準「レベル」は連動しています。今回は、県内の感染状況が「ステージⅢ」と判断されたため、福島県教育委員会が本県の学校は「レベル2」として対応することにした、ということです。「レベル2」になると「感染リスクの高い学習活動を行わない」ということになります。

【「レベル2」の学校生活】

○「感染リスクの高い学習活動」は停止します。

〈感染症対策を講じてもお感染のリスクが高い学習活動〉

- ・ 児童が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等
- ・ 近距離で一斉に大きな声で話す活動
- ・ 理科における「児童同士が近距離で活動する実験や観察」
- ・ 音楽における「室内で児童が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ・ 図工における「児童同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- ・ 家庭における「児童同士が近距離で活動する調理実習」
- ・ 体育における「児童が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする活動」



【関連しての「本校での対応」】

○各学級では「感染リスクの高い学習活動」を控えた生活を行います。

- ・引き続き「マスク着用」「手指消毒」「常時換気」に留意する。

○「他学年との交流」を制限します。

- ・清掃を「縦割りの班での清掃」から「学級清掃」にする。
- ・一堂に会する行事は「リモート」で行うなど運営の工夫をする。
- ・「いまここ学習室」の使用を中止する。
- ・特設陸上部の練習は「大会に出る選手のみ」にする。
- ・「清明安全の日」の一斉下校を行わない。

※6月以降は、そのときの「レベル」に合わせた対応になります。今のところは「学校評議員会[時間を制限して]」「学校保健委員会[参加者を制限して]」「宿泊学習[状況を見て]」と考えています。

今後「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」等が出された時には、さらに踏み込んだ措置が必要になると考えています。

【校長のつぶやき】 その70 「『60分』分の原稿」

「校長の話は長い」とはよく言われることである。どうしても「思い」を伝えようとする「くり返し」が多くなり、話がかどくなる。そうならないように、私は全校集会でも職員会議でも、なるべく「原稿」を書いている。「原稿」を書くのは「話を短くするため」である。

ところが、県校長会の副会長をしている関係で、県内の新しく教頭先生になられた方が集まる研修会で話をする機会を得た。その時間「60分」である。今度は「長く話すこと」に挑戦することになった。ハタと困った。考えた結果、やはり「原稿を書く」ことにした。

まず話の内容を“細かく”区切った。1つの話に充てる時間は「5分」である。それを「12」用意すれば「60分」である。原稿ができてからは声に出して読んでみた。時間を何回か計ったが、だいたい「50分」である。紹介の時間もあるだろうから、ちょうどよいかと思った。

そして、本番である。実際に話をしてみると「間」が入ったり「話のスピード」が変わったりするので、時間がおしてくる。「ラスト10分でまとめの話に入る」と決めていたので、うまく帳尻を合わせることはできた。緊張したのか「唾を飲み込めない」という体験もでき、自分にとっては大変貴重な経験となった。